

協会だより

小笠教育研究協会 事務局
平成 30 年 2 月 23 日 第 5 号



平成 29 年度小笠教育研究協会活動についての意見・考察

本年度も小笠教育研究協会の活動に御理解、御協力をいただきありがとうございました。協会アンケートや一斉研究報告会の反省より挙げられた御意見を以下のようにまとめました。今後の協会活動の充実のために、次のように生かしていきます。

【教育講演会】

- 本年度の講演会も好評であった。ほとんどが「勉強になった」等肯定的な意見であり、県の教育会館が企業をスポンサーにして行う事業なので、来年度以降も行う方向で考えていきたい。時期は8月初旬を第一候補とする。
- テーマが教育に直結する内容、教育から離れた内容の講演を隔年で取り上げている。来年度は、教育関係者以外からの講師を予定している。
- 運営面では、今年同様3階も開放して席にゆとりをもたせ、開場時刻前から並ばなくてもいいようにしたい。講師のリハーサルに関係するが、開場時刻を早めることも検討したい。また、早く来た参加者には日陰に並んでいただくようにする。補助駐車場も、改善する方向で検討していく。

【一斉研究報告会】

- 基本的には「大変勉強になる」「有意義な機会なので、ぜひ継続してほしい」という意見がほとんどである。来年度以降も、教職員としての専門性を高めるために実施していきたい。
- 教科によっては小中分散開催を願う声が少なくない。しかし、各部により小中連携等のねらいがあって公開形態を決定している。そのことを理解してもらうために、協会便りなどで周知に努める。
- 今後も授業公開を基本にするが、実技研修や講演を取り入れるなど各研究部で創意工夫のある報告会にする。
- 公開授業の会場については、参加人数と駐車場の収容台数との問題もあるため、なるべく1校に2部会以上にならない調整が必要である。(特に雨天の場合)授業者・会場校決定については各校の校長との交渉となるので、各部で参加者数の予想と会場校の規模を考えて交渉していく必要がある。
- 一斉研究報告会は、11月に一斉に行うが、生徒指導部のみ10月に行う。事務部を他の日にという意見もあったが、検討・確認の結果、来年度は同一日開催とする。
- 研究委員への負担や各学校の研究委員の割合に差があるため、研究委員の人数を減らす方向を考えながら、学校運営になるべく支障がないように人数調整を行っていく。
- 協会ホームページは、研究推進委員のみアップでき、一般会員はダウンロードのみできることを周知する。

【その他協会活動について】

- 全体的に肯定的な意見が多く挙げられていた。
- 「いきいきにこにこ作品展」については、各学校の保管期間の短縮、中学校の新人戦を考慮し、来年度も9月第3週の土日を予定している。作品は、今年度と同様、学級2点までとする。

【お知らせ】

情報教育研究部で研究のため使用していたiPad(2台)の貸し出しをしています。校内の教育活動で活用してください。貸出期間は2ヶ月で、延長したい場合は更新もできます。利用したい方は、小笠教育研究協会事務局までご連絡ください。